

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やすらぎと自信を感じられる 明るい長寿社会作りに努めます」と言う理念を掲げ、理念に基づくサービスの提供に取り組んでいる。	○	理念や施設方針等に地域密着型サービスとしての役割・目標を定める事で、より深く地域と関わりと共に、地域に根ざしたサービスの提供に取り組んで頂く事を望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼にて理念を唱和し、職員全員に周知している。契約時に家族に対して説明を行い、理念や施設の方針を周知している。また、運営推進会議にて、参加者に理念の説明を行っていると共に、玄関に理念を掲示し、内部・外部問わず、理念の周知を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していると共に、お祭りや民謡大会等の地域行事に参加し、交流を図っている。小学生・高校生の職業体験の受け入れを行っており、世代間交流が図られている。管理者が地域の消防団に加入している。また、住民集会等にも積極的に参加しており、地域の中での役割を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価にて指摘された事項においては、話し合いを行ない、適切な改善が図られている。外部評価実施前には、会議にて説明を行い、職員全員が外部評価の意義を理解している。自己評価においては、職員全員で記入し、管理者がまとめ、作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域住民、地区区長、民生委員、市の高齢者支援課職員、施設役員、職員を構成員とし、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、活動報告や質疑応答を行ない、施設理解の促進に努めていると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常業務における連絡・報告・相談を随時行なっていると共に、運営推進会議等を通じて定期的な交流も行っている。また、市役所に施設のパンフレットを設置して貰う等協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に施設の広報誌を発行していると共に、面会時や手紙にて、入居者の生活状況・金銭管理・健康状態等を報告している。また、生活状況に変化があった場合や必要時には、随時電話にて報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱・相談窓口の設置を行なっていると共に、家族の面会時や電話の際に意見・要望の確認を行なっている。また、定期的にアンケートを実施し、家族の意向・満足度の調査・検討を行なっている。挙げた意見や苦情においては、記録し、検討を行った上で、家族への説明と再発の防止に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の人事異動や入退職においては、手紙・電話・広報誌にて報告を行なっているが、現在の所、異動はなく人材は安定している。入職があった際には、自己紹介を行い、慣れた職員と一緒に業務をしながらできるだけ早く馴染みの関係が築けるよう配慮している。また、随時、職員の相談に応じていると共に、職員が意見を言いやすい環境を作る事で、離職率の軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、必要に応じて参加をしている。研修参加後は、報告書の作成・資料の閲覧・報告会を兼ねた内部研修にて情報の共有を図っている。2週間に1回内部研修を開催し、職員の質の向上に努めている。また、日常業務における相談を受け付け、その都度、指導・助言を行なっていると共に、訪問看護師による医療面でのアドバイス等を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会、千葉県グループホーム連絡会、全国グループホーム連絡会に参加しており、会議にて意見・情報交換が行なわれている。また、在宅ケア研究会に参加しており、勉強会等が行なわれ、サービスの質の向上につなげている。併設のケアハウスや地域の小規模多機能ホームと相互に行き来する関係が築かれており、一般職員や入居者同士の交流の場となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を随時実施していると共に、状況に応じて体験入居も可能となっており、施設の雰囲気や方針を理解してから入居を勧めている。入居後は、馴染みの物を持ち込んでもらい、自宅に近い環境作りを行い、安心して生活を送ってもらえるよう配慮している。また、声掛けや席順等を工夫し、できるだけ早く馴染んでもらえるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者から人生経験や生活の知恵を学び、共に支え合う関係が築かれている。また、家族の希望に応じて外泊や外出を行なう事が可能となっており、職員と家族が密に連携を取る関係も築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談にて本人・家族から意向や生活歴を聴取し、記録している。また、必要に応じて利用していた施設や病院から情報の提供を受けている。日常生活における観察や気付きを記録していると共に、会議にて入居者の情報や意見を出し合い、本人の意向やニーズを職員全員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画においては、面談での情報や本人・家族の意向を踏まえた上で、職員全員が意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。計画作成後は、家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、評価や目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを行なっている。また、生活状況に変化があった場合には随時、見直しを行なっている。家族の意向については、面会時や電話にて随時、確認を行っている。見直しにおいては、会議にて職員全員が意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。必要に応じて訪問看護師に医療面からの意見をもらい、計画に反映させている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に応じて、買い物や理美容室等への外出支援が行われている。併設のケアハウスとの合同行事が行なわれていると共に、週に2日ケアハウスのクラブ活動に参加しており、入居者の生活の活性化に努めている。また、マッサージやオイル・クリームの塗布等、個別に行なっており、入居者のニーズに応える柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも希望の掛かりつけ医への受診が可能となっている。必要に応じて認知症専門医への受診を行っており、状況に応じた受診支援が行われている。週に1回訪問看護が実施されており、適切な健康管理が行なわれている。訪問看護記録が詳細に行なわれており、医師への受診の際に円滑な情報交換が行なわれている。また、24時間連絡が取れる体制となっており、緊急時への対策も講じられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における施設の指針・方針を明文化しており、家族の同意を得ている。訪問看護に24時間連絡が取れる体制となっており、緊急時の対策が講じられている。重度化した場合には、家族、医師、訪問看護師等と相談しながら施設として出来る限りの対応ができるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類においては、事務所にて保管し、個人情報の保護に努めている。接遇研修を行い、排泄・入浴時のプライバシーの保護に細心の注意を払っていると共に、権利擁護や成年後見制度の研修を受講しており、入居者の尊厳を守る為の取り組みが行なわれている。また、居室には、鍵が設置されており、プライバシーの保護に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる日課を定めているが、入居者の希望や生活ペースに応じて柔軟な支援が行われている。入居者の希望を尊重しており、レクリエーションの参加や食事の時間等は自由に選択できるようになっている。希望が言い出せない入居者に対しては、個別に話を聞く等、希望を言い出しやすい環境作りに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで入居者と共同で行っている。献立の作成は栄養士が行い、栄養バランスに富んだ食事提供がなされている。食材においては、地域のスーパーに配達してもらっている。誕生日会の時には、職員と入居者が一緒にケーキを飾り付けしていると共に、不定期に外食会が行なわれ、入居者に食に対する楽しみを提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施されており、入居者の希望に応じて回数等は柔軟に支援している。入居者の好みに応じて個別にシャンプーやボディソープを用意し、楽しく入浴ができるよう工夫している。入居者の入浴拒否においては、無理強いしないよう配慮し、声掛けにて、適切な対応に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。音楽体操等のレクリエーションが行なわれており、近隣の小規模多機能ホームを訪問し、音楽体操の発表会を行う等、入居者の生活の活性化に努めている。また、オセロ・読書・キーボード等、入居者の得意分野を活かした支援も行われている。定期的に行事を企画・実施し、入居者に様々な楽しみを提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、散歩・買い物・ドライブ等を随時行なっている。施設は広い敷地を有しており、敷地内の散歩を楽しんだり、ウッドデッキにてお茶飲みや日なたぼっこをする等、外の空気を楽しむことが可能となっている。また、併設のケアハウス・地域の小規模多機能ホームやグループホームとの交流行事が行われ、戸外での楽しみを提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠は行なわず、入居者の自由な生活を支援していると共に、夜間はセンサーを活用し、安全確保に努めている。また、事務所から玄関が見える造りとなっており、目が行き届くようになっている。入居者が外に出た場合は、声掛け等にて自由を束縛しないよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時や緊急時のマニュアルを整備していると共に、年3回、消防署の協力のもと、消防・避難訓練が行われている。訓練は、併設のケアハウスと共同で行われており、災害時の協力体制が構築されている。また、管理者が地域の消防団に加入しており、災害時・緊急時における地域との協力体制も講じられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	能力に応じた食事提供がなされていると共に、食事や水分の摂取量を記録している。入居者の嗜好等は、日頃から確認を行い、把握をしている。摂取量が不足している場合には、声掛けや間食にて必要な栄養確保に努めている。また、必要に応じて栄養士と相談し、アドバイスや指導を受けている。毎食後、口腔ケアを実施していると共に、嚥下体操を行っており、口腔機能の維持向上に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は全面バリアフリーとなっており、安全面に配慮した設計となっている。トイレは広く設計され、十分な介助スペースが確保されていると共に、男性用便器も設置され、利便性に優れている。共有スペースは、入居者・職員・ボランティアが共同で作成した作品が飾られており、賑やかな雰囲気となっている。また、リビングはとても広く、十分な採光と開放感があり、テーブルやソファが設置され、入居者が思い思いにくつろげるよう環境作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、入居者がくつろげる居室作りがなされている。また、希望に応じて畳・カーペット・布団を敷くことが可能となっており、生活暦に合わせた居室作りに努めている。全居室にエアコンと換気扇が設置され、適切な空調管理が行なわれていると共に、ナースコールが設置され、安全面への配慮もなされている。居室には鍵が設置されており、入居者のプライバシーへの配慮がなされている。		